

古民家の野外博物館

# 日本民家園だより

昭和63年度第1号

《通号第12号》

発行 63.5.1

川崎市立日本民家園

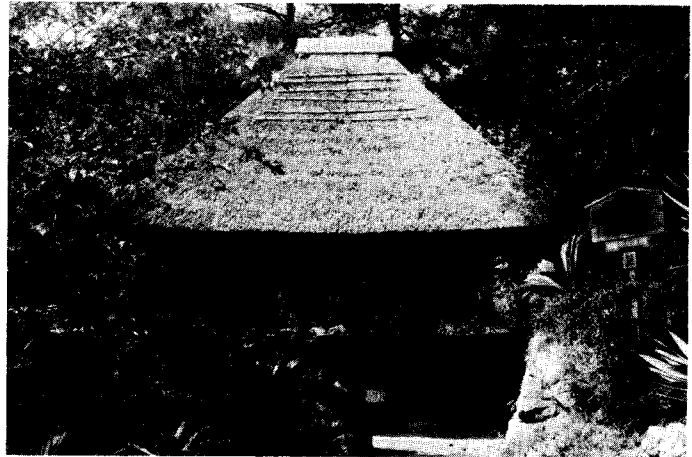
川崎市多摩区枳形7-1-1

電話(044)922-2180-1

印刷(資)永申社

## 南国ムードの高倉

- 沖永良部の高倉
- 寄棟造り，茅葺き，平入り  
(脚柱4本)
- 平面積 6.63㎡
- 旧所在地 鹿児島県大島郡  
ワドマリウチジロ  
和泊町内城
- 昭和44年9月 山田中安氏よ  
り川崎市に寄贈
- 昭和45年3月 移築復原工事  
完了



### ◆古いかたちのくら・高倉

「くら」というと、土蔵を思いうかべますが、この高倉が登呂をはじめ、各地の遺跡から発見されているように、わが国の古いかたちの倉でした。今日では本土にあまり見られませんが、沖縄・奄美・八丈等の黒潮に沿った島々には、まだ見ることができます。

この高倉は、もと奄美群島の沖永良部島の和泊という町にありました。建築されたのは19世紀後期だろうとみられています。地面に直接、倉の部分があるのではなく、4本の高い脚柱の上にのった屋根の部分が倉庫があって、文字どおり「高倉」です。

石垣に囲まれて、珊瑚礁岩の柱礎石上にたつ円柱は「イジュ」という木で毒性と匂いで害敵を防ぐといわれます。柱は太い貫で固められ、

### 沖永良部の高倉

そのなかは「クンタ」といって休憩・作業の場です。柱の上に床をつくり、屋根を葺いて空間を穀物等の倉庫として、一本の木に刻みをつけた梯子で出入りして使います。この梯子は、上の倉庫のなかに収納してあります。床が高くて湿気が防げ、柱頂部の金属板巻きの鼠返し等に工夫がしのばれる南国ムードあふれる建物です。

### ◆みどころ

- 古代建築を想わせる外観
- 釘を1本も使っていない構造
- 高温多湿や害敵への工夫

# 公開！旧佐地家の門



移築復原された旧佐地家の門

昨年12月より復原工事が行なわれていた旧佐地家門・供待・塀がいよいよ5月から公開されます。

三州瓦の屋根・下見板張りで白漆喰塗り込めの壁・武者窓・門両脇の提灯釣りなどが、江戸後期の武家らしさを漂わせています。

旧三澤家住宅を主屋に見たててご覧ください。

新たに充実した宿場コーナーへ是非どうぞ。

## 7月までの行事案内

### ◆ 『民家園まつり』＜5/1～31＞

- 民俗芸能公演（22日，雨天は29日に）  
県内の民俗芸能の公演が行なわれます。  
本公演のみ観覧の方は入場無料です。
  - 会場 旧船越の歌舞伎舞台
  - 開演 12時30分
- 民具着用体験（5月中の各日曜日）
- 古民家みどころ紹介（8，15日）
- 民具手づくりコーナー（15，22，29日）
- こども写生会（1，3，4，5，8日）
- スケッチ展（15～31日）
- 民俗資料の展示（1～31日）

### ◆ 民家に学ぼう会＜6/12，19（日）＞

- 内容 古民家に関する基礎知識
- 申込 5/22から往復ハガキで，先着順
- 定員 30名

### ◆ 文化財映画会＜7/17，24（日）＞

- 白川郷学習室にて，参加自由。
- 時間 ①10：30～ ②1：30～

## ◀ 年中行事 ▶

### ◆ 端午の節句＜5月中＞

武者人形飾り，鯉のぼりの展示。

### ◆ 七夕まつり＜7月中＞

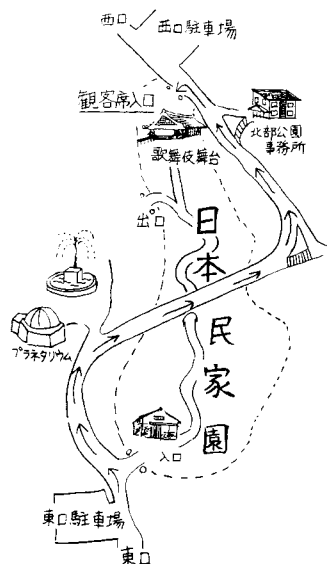
入園者の方に，自由に短冊を書いています。

### ◆ 万歳（マンガ）洗い＜7月中＞

田植が終わったのをお祝いします。

# 第21回民俗芸能公演へのお誘い!!

本年も“日本民家園まつり”を5月1日から31日まで開催いたします。中心となる催し物の「民俗芸能公演」は、5月22日（雨天の場合29日）お昼12時30分より例年通り旧船越の歌舞伎舞台で行われます。出演団体は、市内川崎区の川中島囃子保存会、中原区の下小田中大戸神社祭囃子芸能会、宮前区の宮前うすひき唄保存会、さらに市外から横浜市旭区の善部妙蓮寺曲題目保存会が予定されています。どうぞ皆様お誘い合わせの上お越し下さい。なお当日は、生田緑地西口近く旧船越の歌舞伎舞台観客席横に、民俗芸能公演観覧者専用出入口を設けます。公演観覧のみを希望される方は、そちらからお入り下さい。



宮前うすひき唄保存会公演（昭和52年度）

## ..... 民具に触れてみませんか .....

### 民具の手づくりコーナー

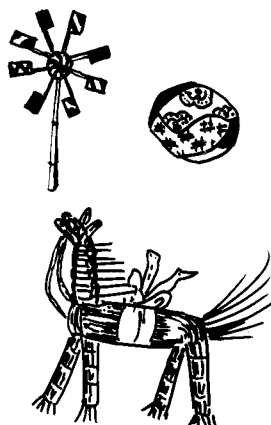
あなたの手で昔なつかしいオモチャや生活用品などを作ってみませんか。

わらざうり、ワラ馬等（5、22、29日）

竹の風車（22日） お手玉（15、22日）

### 民具の着用体験コーナー

ワラで作った履ものや、みの、背当などの着るもの、山菜採りに持っていく、ワラの背負袋などを、あなたの身につけてみませんか。また違った感じが味わえますヨ。（5月中の各日曜日）



### 民俗資料の展示

（民具のできるまで）

わらじはどんな順序で出来上がるのだろうか。竹カゴはどこから編み始めるのでしょうか。そんな問を、わかり易いパネルにして展示します。（5月中）

いずれも会場は旧作田家で民具製作技術保存会の皆さんの協力で行われます。

## （園の動き）

### ◆ 親と子の手づくり教室〈2/21〉

香り高いヨモギを用いた草ダンゴ作りが、多摩農協婦人部の協力を得て、旧作田家住宅の土間で行なわれました。当日参加した29組の親子は、上新粉をお湯でこねて、ヨモギを加えてウスでつき、丸めてセイロで蒸し上げて、きな粉をたっぷりまぶして食べました。今ではほとんど見ることもできなくなったカマドやセイロを使い、自分の手で作った草ダンゴは、ほんのり懐かしい味がしたのではないのでしょうか。

### ◆ 民具づくり教室〈3/13〉

埼玉県小川和紙工業協同組合より3名の講師の方をお招きし、<sup>てす</sup>手漉き和紙の講習が行なわれました。26名の方が参加され、紙をすき、圧縮し、乾燥させた和紙に、色をつける、という“紙すき”から“色染”の過程に挑戦。赤・青・緑・黄の鮮やかな色、思い思いの柄の手づくり和紙ができあがりしました。世界にたった1枚だけの自分の手づくり和紙、何に使っても趣たっぷり！

### ◆ 旧伊藤家住宅の屋根の葺替え〈2/1～3/31〉

今回は傷みの激しかった右側面および背面のみが葺替えられました。そのため、新しい茅と古い茅との違いを観察することができます。

### ◆ 民家園協議会〈3/26〉

62年度のまとめとしての協議会が開かれました。

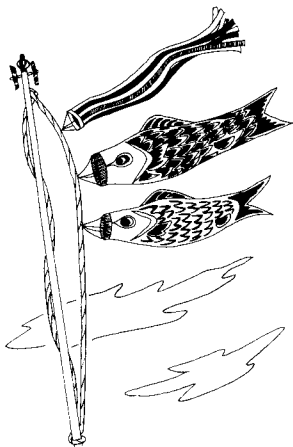
### ◆ 人事異動〈4/1〉

4月1日付けで人事異動がありました。

4年余にわたって勤めた木下啓主査が総合教育センターへ副主幹として転出し、市教育委員会・施設部計画課から新しく上條天壽主査が着任しました。



キネをふるって草ダンゴづくり



### 編集後記

『日本民家園だより』昭和63年度第1号をお届けいたします。春の訪れとともに木々に緑が蘇り、様々な草花が景色に彩りを添えています。民家園を含めた生田緑地は散策に、ハイキングに、遠足に、最適の季節となりました。5月中は、恒例の“民家園まつり”も開催されます。例年期間中に行われる“民俗芸能公演”は多くの方々にご覧いただいておりますが、本年も郷土色豊かな公演を予定しています。園では一人でも多くの方にふるさとの祭の雰囲気を味わっていただければと考えております。

どうぞ御家族づれでお越し下さい。